



世界中で読まれている
NAの
定期刊行物

NA Way マガジンは、ナルコティクス・アノニマス・メンバーのための雑誌であるため、英語、ペルシャ語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語など、さまざまな言語で出版されている。そしてこの雑誌の使命は、ひとりひとりのメンバーに回復とサービスに関する情報を提供することであり、そこには回復にまつわる喜びだけでなく、現在NAで問題となっていることや世界中のNAメンバーのだれにとっても見過ごせないイベントなども取り上げている。編集スタッフはこのような使命に従い、世界中のメンバーが特集記事をはじめとするさまざまな記事を書いて、自由に載せられる雑誌にしようとするのはもちろん、現在行われているサービスやコンベンションに関する情報を提供することにも力を注いでいる。だが、これが定期的にメンバーに届く雑誌であるからには何よりもまず、『アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物を使うのをやめることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見いだすことができる』というNAの回復のメッセージをたたえることにこそ力を注ぐ。

NA World Services, Inc.
PO Box 9999
Van Nuys, CA 91409 USA
Telephone: (818) 773-9999
Fax: (818) 700-0700
Website: www.na.org

NA Way マガジンでは、読者のみなさんが参加されるのをお待ちしております。この年に4回発行される定期刊行物によって、ぜひ、世界中の仲間たちと分かち合いをしていただきたい。回復するなかでの経験はもちろんのこと、NAのさまざまなことに関する意見や、これからの課題などについても投稿をお待ちしています。ただし、投稿された原稿はどれもみな、ナルコティクス・アノニマス・ワールドサービス社に所有権があるものとされる。購読の予約、編集に対する意見のほか、著作権など実務的なことでの相談は、PO BOX 9999, Van Nuys, CA 91409-9099 にお問い合わせいただきたい。

NA Way マガジンは、NAメンバーがそれぞれに自分で経験したことや自分なりの意見を紹介する雑誌である。ここにはNA全体の意見は表明されていない。そしてもちろん、ナルコティクス・アノニマス、NA Way マガジンまたはナルコティクス・アノニマス・ワールドサービス社によって支持されていると受け取れるような記事も掲載されてはいない。また、インターネットからNA Way マガジンを配信することを希望する場合には、上記のアドレスに手紙をいただくか、naway@na.orgにeメールをいただきたい。

NA Way マガジン (The NA Way Magazine : ISSN 1046-5421)、NA Way (The NA Way)、ナルコティクス・アノニマス (Narcotics Anonymous)、この3つは、ナルコティクス・アノニマス・ワールドサービス社のトレードマークとして商標登録されている。NA Way マガジンは、ナルコティクス・アノニマス・ワールドサービス社 (19737 Nordhoff Place, Chatsworth, CA 91311) によって、年に4回発行される。

postage is paid at Santa Clarita, CA, and at additional entry points. **POSTMASTER:** Please send address changes to The NA Way Magazine, PO Box 9999, Van Nuys, CA 91409-9099.

編集者から、ひとこと

わたしは今日、ミーティングのフォーマット（形式）のことでホームのメンバーとメールのやりとりをした。『リビングクリーン』のスタディミーティングなので、司会者が左回りでメンバーを指名して輪読していくという形式になる。これに対して、グループでは「左回り」という部分を削除してはどうかという意見があった。「どこから読み始めたってかわらないじゃないか」というわけだ。もちろん、そんなところを変えることなど考えもしなかったという者もいれば、「なんで変更するの？ そのままでいいじゃない」と考える者もいた。きっと、ホームグループの創設メンバーたちにはあえて「左回り」とした理由がはっきりわかっているのだろう。最初にフォーマットを作成したひとが思いのままに書き加えたのかもしれないし、はじめてミーティングを開いたときの会場のセッティングがもとになっているとしてもおかしくはない。それでもなかには、ミーティングをコントロールしたかったメンバーたちが左利きであったため、その隠された動機がフォーマットにも表れたという説をとる者もいるだろう。

わたしたちの決定がもて、アディクトが生きもすれば死にもするの。まさか、そんなことはないだろうが、ホームでのやりとりから今月号のNA Wayではサービスに焦点を絞ることを思いついた。こういうちょっとした議論によって、わたしたちがNAの第一の目的を実現する場であるホームグループの一体性と強さが築かれていくのだ。わたしたちの議論は、NAのスピリチュアルな原理が働いている例のひとつである。どのメンバーも意見を聞いてもらえるので、話し合いに参加していると感じる。わたしたちは話し合いの場にハイパーパワーを招き、心をひとつにして取り組み、どんな考えや意見も尊重する。それがこのようにたわいのない話題であっても、心をしっかりと開いて取り組む。わたしたちは、先人の信頼されるしもべたちに敬意を表して字はせてもらおうとしながら、新しい仲間たちと新鮮な声を歓迎するのだ。場合によっては、自分の考えを脇に置いて、グループの良心を受け入れることもあるだろう。たしかに、読む順番なんてたいした問題ではないけれど、スピリチュアルな原理に導かれてグループの役目を果たしていれば、わたしたちが得るものは計り知れないほど大きいのだ。

ド・J (エディター)

今月号の掲載記事

特集記事	3	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの未来を考える 2014年から2016年までのプロジェクト 意思決定 選挙結果
WCNA 36		
第36回NAワールドコンベンション	4	
ベーシック・キャプション・コンテスト	4	
わかちあい	5	
<ul style="list-style-type: none"> 信じる気持ち 歩みを止めないで HOW 旅のはなむけ 		
「伝統」に関する書籍のプロジェクト	9	
第32回		
ワールドサービスカンファレンス	10	
		<ul style="list-style-type: none"> フェローシップディベロップメント 12 2014年 ワールドユニティデイ 13 役に立ちたいわけ 14 グループ紹介 17 Calendar 18 NAWS Product Update 19 Coming Soon 20

Click here for more on the WSC 2014 idea tree.

Cover photo: An idea tree is drawn by attendees at many NAWS events as a place to share thoughts, comments, and ideas. The WSC 2014 idea tree sprouted more than 60 "leaves" on topics like communication, WSC decision

NA Way マガジンでは、読者のみなさんからののお便りをお待ちしている。掲載された記事に対する感想はもちろん、NAという集まりのなかで取り上げられている問題についてひとつの考え方を示すにすぎないものであっても、エディター宛に送っていただきたい。250字以内にまとめていければ、そのまま編集の手を加えずに掲載されることになっている。お便りには、本名、現在使われている住所および電話番号を明記することをお忘れなく。掲載される場合には、アノニマスでという希望がないかぎり、ファーストネームと苗字のイニシャルを署名として用いることになる。

母さん、 お茶が入ったよ

やあ、みんな、元気かい。おれはジョン。オーストラリアのアディクトだ。今日、おれのところにアメリカにいる仲間からプレゼントがとどいた。回復に関するCDを何枚か送ってくれたんだ。それによって、これまでふとしたときに気づきながらも心の奥に埋もれてしまっていたことがいくつかはっきりとして、わかったことがある。クリーンタイムが24年ともなれば、おれもちょっとは「知恵」が回る。いつのまにかだんだんと否認が巧妙になってくるっていうのも、そのひとつだ。

おれは肝臓をやられてる。C型肝炎というだけでもヤバいの肝硬変になって、今じゃ2型糖尿病も抱えてる。こうなると、とても元気いっぱいという状態ではられない。昨日も、かかりつけの専門医に会ったら、さらにうんざりすることを知らされた。それでもおれは、ここ南オーストラリアのアデレードの仲間たちから調子をたずねられると、「こうなったらジタバタしても始まらないよ。せいぜい食事に気を配って、これ以上悪くならないようにするさ」などと答えている。だが、実際はどうなのかといえば、具合が悪いことでオロオロしてイラつき、怒りすら覚えるのに、そんなこと、どこ吹く風とやり過ごしている。グリーンになったら、そんなことにはおさらばしたんだって風にな。

苦しみを口実にして、あっちへ行っちゃまおうなんてもくろんでいたら、どんな結果になるか考えてみりゃいいんだ。

おれは、今こそサービスに目を向け、自分にできる人助けをいろいろやってみようという心境に至った。人の役に立てることのすばらしさを知るには、それぞれいろんな方法がある。NAでサービスに関わったことによってわかったんだ。グリーンになって1年半で親父が死んだときのことは、それがわかり始めた経験のひとつだった。おれは、親父を失ってどうしていいかわからず、悲しみにくれていた。とりえず故郷の農場に戻ったんだけど、そこでハタと気づいた。おれは、親父が息を引き取ったベッドで寝ることになるんだ。シドニーにいるスポンサーに電話をすると、「お袋さんにお茶でも入れてやれ」って言うじゃないか。おれは、どのステップを実行すべきか、どんな祈りをとなえるべきかってことを知りたかったんだ。それなのに、スポンサーときたら、「お袋さんにお茶でも入れてやれ」と言うばかり。それでお茶を入れ始め、あれこれ考えた。お袋は、砂糖をいくつ入れるんだろう。ミルクはどのくらいかな。そんなちょっと風変わりなことが、おれの回復を深めてくれた。おれは、自分のことはさておいて、人のことを考えるようになったんだ。

そして、おれはこれからカンボジアの孤児院でボランティアをしに行こうとしている。これで、おれの人生も変わるだろう。今こそ、変えなくちゃいけないんだ。おれは、バリ島で開かれるNAのコンベンションをのぞいてみるつもりだ。おれと同じ頃にグリーンになって今は東南アジアに住んでいる仲間たちがたくさんいるし、電話番号もわかっている。そのあと、おれはスコットランドとヨーロッパに戻る。どちらも、おれがクリーンタイムの8年目から13年目までの5年間に旅した場所なんだ。いやあ、回復したんだなあ。もう夢を見るわけじゃない。こうやって、人生を楽しんでいるんだからな。

おれは、かつてつるんでいた大方の連中のように、シドニーのキングスクロスの裏通りで死んで何日かしてからスキップビン（大型のゴミ収集コンテナ）のなかで発見される運命だった。それが今や、おれの運命はサービスに関わることにかかっているらしい。そう考えると、ちょっとばかり身体にガタがきてる（ほら、やっぱ）、どこ吹く風だ）としても、こうして世界中に仲間がいるNAという集まりには感謝の気持ちしかわいてこない。だからこれまで、このあたりで5つのミーティングを始めて、エリアのいろんなサービスミーティングに出席し、刑務所や解毒施設に足を運び、「リカバリー・オン・ホ





信じる気持ち

去年の今頃はたしか、あたしは自分のアパートに戻って2週間前ぐらいだった。それまで、あたしは1年間もアパートを人に貸したまま、実感に戻っていたの。ママと暮らしていたあの1年を思い返すたびに、あたしはおぞましさに身ぶるいがし、額に手をあて上目づかいで頭を振りながら、どうしていいかわからないって顔になる。でも、今はちょうど「母の日」を迎えただけだから、やめておこう。あんな顔をするためにこの記事を書いているんじゃないもの。

何が言いたいかというと、この場所には、あたしは前にもいたことがあるってことなの。自分のアパートに戻ったって文字通り物理的な場所のことじゃなくて、ここがスピリチュアルな場所になってるということよ。だってね、その前の年に(ダメ、ソツとしちゃう)病院に入院して、あたしは金欠だった。手術を受けたのよ。そんなときに「最愛のママ」が、「2週間もすれば身体もよくなるだろうから、それまでわたしのところになさいよ」と言ってくれたわけ。あたしは頭をフル回転させて考えた。「悩むことないじゃない。アパートを貸して実家に戻ればいいのよ。そうすればお金も貯まるし、何不自由なくぬくぬくしてられるんだから……まさに、怖いものなしじゃん！」ママは、あたしほど乗り気じゃないみたいだったけど、でも、あたしがよくわかってるんだから、いいじゃない？ というわけで、あたしは1年間の賃貸借用の契約をして自分の持ち物をそっくり実家に移したんだけど、やれやれと思う間もなく、なんだかかもやもやと疑問のようなものがわいてきた。それでも、頭のなかでは「カチャカチャ、チーン！(レジスターの音)。お金のことを考えなくちゃ！しかも、手料理の夕飯が食べられるんだから、最高じゃない」という声が出た。そして、それから5ヶ月すると、ママもあたしも髪の毛をかきむしっていた。9ヵ月から10ヵ月後には、第3次世界大戦が火蓋を切ろうとしていた。アパートを返してもらわなくちゃ。ぐずぐずしてる場合じゃなかった。

こうなる1年前には、あたしとハイパーパワーとの関係は最悪の状態になっていた。恥をしのんで正直に言うと、ハイパーパワーとのやりとりなんて一度きりしかなかった。それも、人生がどうにもこうにも、思うとおりにならないのは何でなのかって腹を立てていたときのことよ。あたしはすごく孤独だった。恋人がいなかったからじゃない。生きてるってだけで孤独だったのよ。あのとき、あたしはクリーンになって7年ぐらいになるのにハイパーパワーのことが信じきれず、ミーティングに行かないように自分に言い聞かせ、ミーティングに行ったら行ったで、仲間の話に共感するどころか違いばかり探していた。ハイパーパワーに関するあたしの考えは、変わってしまった。N.A.につながったばかりのころは、ミーティングという場やステップやグループの力のことだったのだけど、あのときには、一緒に家に帰ってきて同じ部屋のなかに入れてくれる存在を必要としていた。たぶん、ハイパーパワーはいつだってそうしてくれていたんだと思うわ。あたしの方から接触すればよかったのに、そういうことをしていなかった。自分がどうにもならないとわかり、『ベーシックテキスト』の「ステップ6」(あの時点で、あたしが取り組んでいたステップ)を読むという助言に従ったことで、あたしはもう一度しっかりと回復の道を歩みながら、ハイパーパワーと意識的なふれあいがもてるような関係を築くことに全力を注いだ。そして、いくつかの簡単な手順を踏んだことや、ロンドンのN.A.コンベンションで素晴らしいスピーカーの話聞いたことなどがあって、あたしはいつのまにか回復のまっただなかに戻っていた。愛するママの家においておぞましさに身ぶるいがし、額に手をあて上目づかいで頭を振りながら、どうしていいかわからないって顔をしたことを別にすれば、これまでにない素晴らしい時間を過ごすようになっていた。

そんなこんなで、第3次世界大戦の前夜に、あたしは不動産屋に向かった。担当の女性は、最初に交渉したときにはあたしのアパートを貸すことにすごく熱心だったのに、今回会ってみると、アパートの借り手を追い出すことには関心がないようだった。しかも、借り手の方にアパートを出て行く気がないなら、こちらはもうどうすることもできないでしょだって。そうやってあたしを手玉にとってわけのわからない恐怖に突き落とし、一夜にして老け込ませてしまった。どうすることもできないって、どういうことよ？ なすすべがないってこと？ 全くお手あげってこと？ そう、何もできません、何もね、とこの女性は言った。「それじゃ、どうすればいいの？」とあれこれ思い悩んだり、そもそもママがあたしに2週間いなさいなんて言うからいけないんだと責めたりして、あたしは朝の5時までグルグルしてたんで、とんでもなく手の込んだ夕飯のおかずとデザートまでつくってしまった。

あたしは、ハイパーパワーに助けを求めるしかなかった。次の日、あたしは数ある場所のなかでも、素晴らしい音楽を奏でて人々のために祈りをとねる場所に行った。あたしはだれにも何も言わなかったし、あたしのために何か言ってほしいと頼んだりもしなかった。そこには1,000人かそこらの人が集まっていた。そして、ひとりの女性が壇上に立ち、集まった人たちが提出した祈りを読み上げていった。なんと最初に読み上げられた祈りは、貸部屋に関する問題の解決を祈願する人の祈りだった。うなじの毛が逆立つって、まさにこのことよ。偶然の一致かもしれないけど、あたしは、前の晩に祈っていたことにハイパーパワーが答えてくれたのだと思いたい。『ベーシックテキスト』の「ステップ2」に書かれているとおり、「たくさんの偶然や奇跡が毎日の生活で起こるのを目にするようになると、受け入れることは信頼へと変わる。ハ

わからないことばかり
考えていると、
頭が空回りしちゃう。

イヤパワーが力の源泉であることが、いい感じで受け止められるようになる。この力に対する信頼を学んでいくうちに、人生に対する不安は乗り越えられるものになる」のよ。このようなちょっとした偶然の一致があってから、あたしは自分にずっと言い聞かせていた。「神様にはわかっちゃう・・・そうよ、お見通しなのよ」。頭の中で、何度も、何度も、繰り返した。なにがあらうと、恐怖心から行動しちやいけな。そんなことをしたら部屋を貸している人にも恐怖心を抱かせることになってしまう。(あの女性には、手のかかる幼児が2人もいるのよ。だから、あたしと同じぐらい家を必要としてるんだわ)。あたしは、部屋を貸している女性に、もし可能なら、1ヶ月早めに部屋を出てもらえないかとお願いした。そして不安な気持ちと向き合い、ただもう懸命に祈り、神がうまきはからってくれるのを頼みにした。それでどうなったかという、この女性は2ヶ月早くアパートを見つけて出て行ったわけ。神様は、うまきやってくれたのよ。

それじゃ、なんだって「あたしは前にもこのようなスピリチュアルな場所にいたことがある」という話になるのかっていうと、つまり、あたしは学校に戻りたいのよ。これまでと違う仕事かしてみたいし、文章を書くのが好きでわくわくすることからも、自分には文章をかく仕事に向いてるってわかったの。「それしかない」と、その業界に入るための講座の面接と試験を受けたら、合格したのよ。すごいでしょ!!でも、この講座は料金が4,000ポンドで、しかも今年の9月から始まるため、来月までに前金で1,000ポンド払わなければならぬ。あたしにはそんなお金はないし、どうやって工面すればいいのかもわからない。それに、いったい自分は何がわからなくて何がわかるのかもわからない。そうやって、わからないことばかり考えると頭が空回りしちゃう。

それでも、わかっていることがある。あたしは前にもこういう空回りの状態になっていたことよ。神はお見通しなんだから、あたしにはただ行動あるのみなのよ。あたしにふさわしいことなら必ず与えられるし、ふさわしいことでなければ残念な結果に終わるはず。だって、よく言うじゃない。「拒絶は、神の保護」だってね。それならあたしは、どうすればいいかわかるまでひたすら行動していくわ。そうやっていくうちに、神がうまき計らってくれるはずだもの。

信じる気持ち。それは「人や物への信頼または確信であり、根拠のない信念」のようなものである、と辞書には記されている。

あたしには信じるだけのものがある。大変な思いもせずにあっさりアパートに戻れたことが、その証拠よ。ハイヤーパワーとあたしは、一緒に同じ道のりを歩んだ。そして、根拠のない信念が信じる気もちなのだとしたら、あたしの場合には確かな証拠があって信じているということになる。だからみなさんにも、あたしがうなずきながら自分の姿を見つめているのが、目に浮かぶようでしょ。それが無理だとしても、きっとあたしの言いたいことはわかっただらうんじゃないかしら。

アン・マリー・A (英国/ロンドン)

とにかく歩みを止めないで

こんなこと提案されても、具体的にどうしたらいいかわからないから、わたしはいつもイライラさせられる。とにかく歩みを止めないって、だから何なの?でも、その漠然としたところがまさに取り柄なのだ、今になってわかる。とにかく歩みを止めなければ、なにもかもうまくいくのよ。

歩みを止めないでいれば、わたしはミーティングに行き、スポンサーに電話をし、文献を読んで、祈りをとなえ、散歩に出かけることもできる。そうやって次々と、自分と自分の回復にとって前向きなことをすることができるのが、この提案のいいところ。もし、さしあたってどこにも行く予定がなければ、わたしは苦痛を和らげたり、ごちゃごちゃした頭をはっきりさせたりするのに役立つことや、あるいはハイにならずにいられるようなことをしてもいいだろう。振り返ってみて、自分はハイにならなかつたし正しいこともしたとわかるあの瞬間が、わたしはたまらなく好き。そういうことをやり遂げると、気分がよくなった。歩みを止めないで取り組んでいれば、本当にうまくいく。

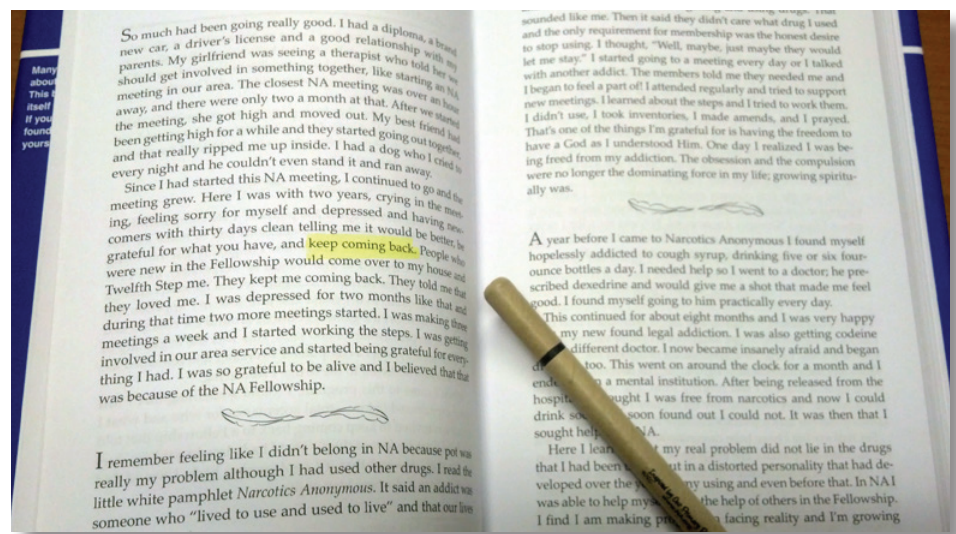
それに、わたしが歩みを止めないでいれば、長期的な効果が見られる。わたしがハイにならなかつた瞬間がつもりつれば、それはつまり何年にもおよぶ経験と成長を重ねたことなのよ。わたしが回復の道を踏み出したばかりのころに抱いた罪悪感や、母親の死による悲しみは、絶対に乗り越えられないだろうと思っていた。この一筋縄ではいかない性格の欠点は、永久に自分について回るのだと思っていた。次々と仕事を変えたり、友達を失ったり、職場でミスをしたたびに、自分は落ちぶれていくと思った。けれども、その瞬間には乗り越えられないように思えた美に多くのことが、今のわたしの土台になったの。わたしは今を生き、回復していくことを信じ、奇跡が起こるに任せるということを学んだ。

それこそが、まさに取り柄なのよ。とにかく歩みを

止めずにいれば、わたし本来あるべき姿に成長していける。わたしは人を怖がらせたくなんかないのに、回復するなかで何年にもわたって混乱と不満を抱えていた。だから4番目のステップについて読んで、あのやっかいなものを取り除くことになると思われていた。自分かどういふものをいまだに抱えていることにものすごくイライラした。自分はどこかおかしいんだと思ったわ。それが読み直してみると、わたしたちは解決するのであって、しかも一夜にして解決するわけではないと書かれてあるじゃない。ナルコティクス アノニマスの12ステップと回復の道具は、わたしの成長と変化の鍵であるけれど、手っ取り早い解決策というものはないのよ。とにかく歩みを止めないことで、忍耐、信頼、受容を実践し、そこから道が開けてゆくようにするしかないのだ。解決するのに何年かかったとしても、わたしはもう混乱したり不満を覚えることもなくなつたのだから、歩みを止めずについて本当によかつた(たとえ、歯を食いしばっていることがたびたびあったとしてもね)。

そうすると、時間という観点は、「歩みを止めないでいること」のもう一つの取り柄だわ。ちりも積もれば山となる。わたしたちが考えていたことは、それが外部の状況であれ、自分の欠点であれ、そのままだし、これからはまったく変わりはしないだろう。わたしたちは(実際の年齢に関係なく)子どもとしてNAにつながり、NAで成熟した大人に成長する。取り組もうと決心したからといって何もかも解決するわけではない。物事によっては、解決に時間がかかるのだ。そこで、「なんで、自分はいつまでたってもこんな状態なんだらう」とか、「なぜ、自分はいつまで経っても自己嫌悪から抜け出せないんだらう」とか、「どうして、いつまで経っても母とうまくやれないんだらう」などと、ミーティングでわかちあわれるのを耳にすると、それでも歩みを止めないでいるようにわたしは伝える。変化は、ゆっくりと少しずつ現れると同時に痛みを伴うことが多いけど、それでもやはり変化しつづけているのだから、やりがいもあるし、すごいことなのだ。

ありとあらゆる浮き沈みをとおして、わたしはとにかく歩みを止めずについて。耐え抜いた自分をとても誇らしく思うし、その成果には本当に驚かされ



た。ナルコティクス アノニマスの一員となれたわたしは、とても幸運だった。みんなも、とにかく歩みを止めずにいてほしいわ。
ナンシー・S (アメリカ合衆国/ニューヨーク)

HOW

クスリにはまっていたのを助けてもらって生き方を変えようと決心したとき、わたしはこれまでにやったことで自分のためにならなかったことを特定しようという決心もしたのです。これまでずっとやってきたことをやっても、結果はずっと変わらないままだと言ってくれた人たちがいたこともあり、結局、何が最善なのかと考えたことで、わたしはプログラムにつながれたのです。わたしは、自分を生きにくくすることで性格の欠点になってしまった振る舞いや考え方を特定するため、必死で助けを求めました。回復の道を歩むようになってすぐ、自分の指をだれかに突きつけると、自分は3本の指を突きつけられることになると教わりました。自分のことに集中しろというわけでしたが、それは今も、わたしが回復によって成長する唯一の方法になっています。

わたしが回復するうえで最も重要になるものは、「HOW」、すなわち正直さ (Honesty)、広い心 (Open-mindedness)、やる気 (Willingness) です。正直さは、本当のことを話すというだけでなく、心のなかに不正直さを生み出す振る舞いや考え方に取り組むことをも意味しています。わたしには虚言癖があるうえに、他人に対してよりもむしろ自分に対して嘘をつくことが多いため、正直さが一番難しいことだとわかりました。自分がろくでもないことを偽っているとわかったことが、初めてめばえたわずかりの正直さでした。そうしてだんだん正直になっていったものの、最初は本当にちょっとずつ、ちょっとずつでした。回復したいという気持ちが大きくなるにつれて、正直さというのはイヤなことから目をそらさないで人生に対処することなのだ、わたしは学びました。あるがままの現実を生きるという考えは、回復したてのころのわたしには無縁なものでしたが、人生を回避するという選択肢はないのです。わたしはまだ正直になりきれずに苦労していますが、回復して成長するためには自分に正直であることがどれほど大事であるかをたえず学んでいます。他人に対しての方が正直になりやすいのかもしれませんが、自分に対して正直になれるようにそれはもう一生懸命努力しています。

広い心は、わたしにとっては気が向かなくても人の言うことには耳を傾けることを意味します。わたしはミーティングで人の話を聞くと、「どのミーティングに出てもみんな同じような話ばかりしている」と言って笑ってしまうことが少なくありません。わたしの心が十分に開かれていないとメッセージが自分に当てはまるのがわからないので、こういうことになるのだと思うのです。だから、ミーティングではどんなひとの話からも何かしら参考になることを見つけようとしてきました。わたしにとって広

い心とは、耳を傾けることです。それによって、自分の回復に生かせることを耳にすることにもなるし、使うことに戻る方向に進んでいる人たちの話からは、してはいけないことを耳にすることにもなります。何があっても使わないでいたい。それが今、わたしが切に願っていることです。

わたしは、ああでもこうでもないとかちやこちや考えずにはいられないのです。この混乱状態をしずめるのに大変な時期がありましたが、それでも、ほかの人たちの話を聞いていると、たとえ話の一部しかわからなくても、頭を切り換えて何か

何度も読んで繰り返し耳を傾けていることによって、 ごちゃごちゃと考えなくなったのです

を学ぶチャンスがあるので。ステップワークの大半は、自分より先に歩み出した人たちのしたことを知って生かすことだと思っています。わたしの回復の旅は、新しい足跡をつけるのではなく、自分より先に旅立った人たちの歩みをたどることなのだ確信しています。わたしはウィスコンシンに住んでいるため、雪の中を歩く光景を思い描くことができるし、雪の吹きだまりのなかを進んで行くときには、自分で新しい足跡をつけようとするよりも、だれかの通った後をたどった方がどんなに楽かわかるのです。だからこそ、ほかの人たちの経験は自分にとってもものすごく意味があるのだとおもいます。だって、わたしは新しいことを思いつく必要はなく、自分の先を歩いた人たちの考えを利用させてもらえばいいのです。

わたしにとって、やる気は回復の要に他なりません。まさに、何があっても使わないというわたしの決意こそが、やる気なのです。やる気がなかったら、耳を傾けることも、変わることも、よりよい生き方を模索することも、回復することもできません。わたしは回復の道に踏み出す何年も前に変わることに抵抗がなくなっていたので、やる気を出すのはそれほどむずかしいことではありませんでした。ただ、どうやって変わればいいのかかわらなかつたのです。だから、回復につながるのなら、なんでもやろうという気があります。それはわたしの場合、たとえ傷ついても正直になろうとすることでもありました。ごちゃごちゃ考えないでとにかく話を聞いてみようという心が開かれたとき、わたしにはやる気が出たのです。やる気と心の広さを合わせると、わたしにはほかの人たちが回復するなかで行ったことを見聞きする機会が与えられるのです。自分とは異なるやり方でも、ほかの人たちに効果があったのなら、わたしは受け入れることができるのです。やる気と心の広さがひとつになることによって、どうにもならないことも、狂気も、信じる気もちも、わたしは認めることができるのです。

回復の成果は、わたしがやる気を抱き、そこに広い心があわさって、さらに正直さが加わったときに表れるのです。やる気と広い心によってわたしは聞く耳をもてますが、正直さがなければ、わたしは聞いたことを生かすことも自分が変えたいと思っていることに取り組むこともできません。わ

たしが生きることがどうにもならないことや自らの狂気を認めて生まれ変わりたいと思えば、変化が訪れるのです。変化は、わたしが変わってみようという気になったときにしか起こらないし、自分から望まない限り、だれもわたしに影響を与えることはできないのです。どれほどグリーンタイムを重ねようとも、わたしの回復の原動力となるのはN Aの原理である「HOW」なのです。

「HOW」についてわたしが気に入っていることのひとつは、神への信頼によって成長していきけることです。わたしは、神について学ぶことを大いに

楽しんできました。これまでに、神の子、神の約束、神の思召しについて学んできました。そして、抵抗や疑問視する権威と大いに闘いました。わたしが回復の道を歩み始めたばかりのころに教えられたことのひとつに、人間には必ず神サイズの穴があって、わたしたちはそれを神以外のもので埋め尽くそうとしてきたという話があります。わたしは今、その穴に神が収まるようにしているところです。

1989年の8月に回復の道を歩み出したとき、わたしはプログラムに取り組むのに悪戦苦闘しました。ステップワークをこなしていても、違いばかりが目につき、深すぎる雪の吹きだまりに飛び込もうとし続けていたのですが、それでも、わたしはひとつのことにすがっていました。何があるかと使ってはいけないということです。そして「ものごとを複雑にしない」、「うまくいっている仲間のそばを離れるな」、「あきらめなければ、かならず奇跡が起こる」など、NAには実に多くのスローガンがあったので、わたしは朝から晩までこのようなスローガンを思い出そうとしたものです。こうしてステップに取り組んでいるうちに、わたしの考え方がどれほど自分を雪の吹きだまりに追いやることになっていったかというのを理解するようになりました。ミーティングのはじまりに使われるリーディングカードを何度も読んで繰り返し耳を傾けるによって、ごちゃごちゃと考えなくなったのです。

わたしは今、雪の吹きだまりには近づかない、考えすぎない、と決めています。正直さ、広い心、やる気があればほぼ満点だと自分に言い聞かせるのを日課にしています。この3つがあれば、12のステップはむずかしいものではないので実行したくなるからです。試しに、「HOW」抜きでステップワークをやってみよう、そうすればわかるでしょう。

わたしが回復の道に踏み出したとき、みんなは心の平安について語り、祈っていました。わたしにはそれがどういふものかもどんな感じなのかわかりませんでした。教育を受けたことなんて、まったく助けになりませんでした。まったくこれまでになかった概念だったのです。今のわたしには心の平安があるし、それがものごとを複雑にしないことから生まれるものだと思っています。「HOW」を

使って回復の方法を複雑にしないことによって、わたしはもう一日クリーンで生き、ささやかな心の平安を確保するのです。
アリス・H（アメリカ合衆国／Wisconsin）

旅のはなむけ

『今日だけ』による「日々の瞑想カード」にはこんな利用法もあるってことを、みなさんにお伝えしよう。俺はアディクションの治療分野で働いている。ここで30日間の治療プログラムを終了する患者の大半が州外に住んでいるが、そのひとりひとりに対してアフターケアのプランを作成するのが、おれの仕事なんだ。退院時には、ここの各部門から患者ひとりひとりに対して新しい旅のはなむけとなるものが手渡される。おれは「今日だけ」のカードを選んだ。これはシンプルでありながら深い意味が込められているし、飛行機に乗るにもたいした荷物にはならないからだ。このために職場では「日々の瞑想カード」のボックスセットを購入した。そして、写真にあるとおり、おれが患者のアフターケアプランのファイルに一枚ずつカードを貼り付けているんだ。NAWS（NAワールドサービス）のおかげで、こうやって家でも職場でも今日だけ利用できるささやかなものがあるんだから、ほんとにありがたいよ。（そう、おれはNAのメンバーだ。カリフォルニア インランドリージョンの一部で、グレート・モハーヴェ／ローワー・デザート エリアのメンバーであると同時に、リージョンの代表も務めている。*）

ヒネル・L（アメリカ合衆国／
カリフォルニア）

*編集記：2013年の情報です。



『伝統』に関する書籍のプロジェクト最新情報

2014年度のワールドサービスカンファレンスでは、2014年から2016年までの2年間に及ぶプロジェクトプランが採択された。これには、ワークグループの結成、書籍の原稿作成、原稿の見直しと意見提供、出版の承認といった作業が盛り込まれている。

これからの2年間に目指すこと

今回のプロジェクトでは、大きく分けて2種類の意見提供が求められる。ひとつは、2012年のWSC（ワールドサービスカンファレンス）終了後から収集が行われてきたものだ。この「下準備」として提供された意見は、最初の原稿作成に役立つ資料となる。もうひとつは、最初に作成された原稿の内容に対するメンバーたちの意見提供で、これによって内容や文章を練り直したものが承認原稿となる。

以上のこと念頭に置き、20分ほどのミニワークショップや90分におよぶワークショップを利用して、ひきつづき世界中のNAで意見収集のワークショップが開かれることを期待している。

先行の意見提供の締め切り

伝統 1	2014年7月31日
伝統 2 ~ 伝統 7	2014年11月30日
伝統 8 ~ 伝統 12.....	2015年3月31日

NA全体による見直しと意見提供 & メンバーからのフィードバックの受付機関

序文 および 伝統 1	2014年10月 ~ 2015年1月
伝統 2 ~ 伝統 7	2015年2月 ~ 4月
伝統 8 ~ 伝統 12.....	2015年5月 ~ 8月

各伝統に関するミニワークショップの概要は、以下のサイトで入手可能です。

www.na.org/traditions.

みなさんのフィードバックやアイデアは、以下のアドレスにお寄せください。

<http://disc.na.org/trads> and worldboard@na.org.

ご協力に感謝いたします！

第32回ワールド サービス カンファレンス: 私たちをつなぐ絆

2年おきのWSC（ワールド サービス カンファレンス）が2014年の4月27日から5月3日に開催されるため、世界のさまざまな国や地域に広がるNAの仲間たちがカリフォルニアのウッドランドヒルズに集合した。今回のテーマは、一週間にわたって私たちの共通の福利のために心をひとつにして協力するという基本姿勢を表している。今回のカンファレンスは、議席を持つリージョンが115。そこに122名のリージョナル デリゲート（リージョン代表）と83名のオルタナイト デリゲート（副代表）が出席した。（フランスのルノー・デットリージョンとネパール リージョンは出席できなかった）。土曜にはワールドサービス オフィスでオープンハウスとランチが催され、会議の開催は日曜からとなった。開会式の終わりには黙想をささげ、カンファレンスで話される21の言語によって平安の祈りが唱えられた。こうして最後に輪になることで心に力がみなぎる。これに優る経験はないと言っていだろう。

私たちの未来を考える

WSCの目的と構成のことはずっと私たちの話し合いののぼっていたが、これについて今回のWSCでは「私たちの未来を考える」という5回のセッションで、私たちのこれまでの歩みと、現状、そしてこれから進むべき道を考えるために、カンファレンスの参加者たちが丸くなって取り組んだ。初回のセッションは、過去の注目すべきできごとを取り上げることでワールドボードによる長期的なプランニングの過程がうかがえるものとなった。2回目、3回目、4回目のセッションではNAの必要性、私たちがひとつになる理由、将来に向けての選択肢などに焦点を絞り、いくつかの部屋に分かれる分科会形式で小グループによる討議を行った。それぞれの分科会で話し合われ、合意された事項が大きな用紙に書き出され、全員に見えるように掲示板に張り出された。意見はすべてセッションの合い間にひとつにまとめられ、つぎの話し合いのたたき台となった。

5つに分かれた分科会同士で何のやりとりもなかったのに大いに意見の一致がみられ、だれもが目を見張らされた。どの分科会でも、将来の世界的なサービス機構の中でNAの要望に応える最良の方法は、ゾーンで代表者を出してもらうことと、世界全体のサービス機構の会議を2、3年おきに開催することという大筋の合意をみた。この合意の範囲内で、ゾーンの構成、ボードのメンバー選出、ゾーン機構の役割、世界全体の機構による会議の合い間にインターネットによる科学技術を利用することなどに対して、さまざまな意見が提供された。

最終となる5回目のセッションでは出席者全員が集合し、各分科会による意見の要約発表に続いて、「これからの道り」を考えるために少人数のグループによるディスカッションが行われた。それによって、勇気と広い心という原理のほか、プランニングという手順の必要性、確認されたアイデアを進展させるワークグループの結成、科学技術の利用、そしてワークショップをはじめとするさまざまなコミュニケーションの手段によって、このようなアイデアを議論する場にメンバーやグループやサービス機関に参加してもらうようにすることなどについて話し合われた。多くのアイデアに合意が得られたが、今回のセッションの目的ははっきりした決定を下すことではなかった。今回のセッションで検討された考えはどれもみな注目すべきものであったため、カンファレンスの出席者が自分たちのリージョンに持ち帰ってさらに検討を重ねながら意見を収集することになる。

これからの2年間に わたるプロジェクト

ここに紹介するプロジェクトプランはどれもみな、2014年度のWSCで目的と作業範囲が定められ、ひきつづき2年間という短期間に取り組むことが

承認されたものである。

NA全体で検討すべき課題

これは、現在進行中のプロジェクトのひとつである。このプロジェクトによって、検討すべき課題に関するワークショップのセッション プロファイルが作成されれば、NA全体にとって重要な問題を掘り下げていくことが容易になるだろう。このほか、この2年間で検討すべき課題にはグループを対象としてどんなメンバーもNAに歓迎することに焦点を絞るものがあり、新しく承認された I P（インフォメーション パンフレット）# 29『イントロダクション・トゥ・NAミーティング』を紹介しながら、伝統3を取り上げていくことになる。

サービスシステム プロジェクト

サービスシステムについては、GSF（グループ サポートフォーラム、グループを支援するフォーラム）、LSC（ローカル サービス カンファレンス、地域のサービス カンファレンス）、LSB（ローカル サービスボード、地域サービスの役員）を盛り込むという方向でプロジェクトを進めていくことに大筋で合意すべく、3つの議案が提出された。討議の末、それぞれの議案が少なくとも3分の2の賛同を得て採択されたことにより、SSP（サービスシステム プロジェクト）の選択肢は「私たちの現在のサービス部門とともに、選択肢のひとつとして『ガイド・トゥ・ローカル・サービス（地域サービスの手引き）』に盛り込まれる」と明記するために議案を修正することになった。このほか、サービスシステム プロジェクトをさらにいくつかの段階に進めるプロジェクトプランも承認された。NAWS（NAワールドサービス）では、GSFやLSC、LSB、プランニング メンターシップ（指導・助言）、グループ サポート、合意に基づく意思決定、プロジェクトによるサービス提供など、サービスシステムに関するさまざまなアイデアを実行しようとする世界各地のNAに役立つ道具を開発していく予定である。そして、このようなアイデアがどのように利用されているかについて意見収集を続けていくことになるが、できればウェビナー（ウェブ上で開催されるセミナー）などによって世界各地のNAがそれぞれの経験をわかちあう機会をつくりたいと思っている。私たちはひきつづきwww.na.org/servicesystemのサービスプロジェクトに関するページで最新情報や資源を提供していくので、世界各地のNAがここで紹介したさまざまな選択肢を利用するようになったら、ぜひ、その経験をEメール servicesystem@na.org で分かち合っていたきたい。

『伝統』に関する書籍のプロジェクト

『伝統』に関する書籍のプロジェクトについては続行が支持されたことで、作業が進行している。WSCの直後に世界各地のメンバー9名からなるワークグループが誕生し、1回目の会議が6月に開かれた。今回の2年間では、原稿を作成して見直しと意見提供を求め、内容の承認を得て2016年のカンファレンス アジェンダ レポートに盛り込む原稿を作成することになる。2012年より収集されてきた意見は、ウェビナーやワークショップやプロジェクトに関する掲示板 (<http://disc.na.org/trads>) で求められる追加資料とあわせて、原資料として使われる。第一回目の論評と意見は、2014年の10月ごろに発表されるだろう。最良のNA文献が誕生するためにはNA全体で取り組む必要があるため、メンバーはひとり残らず参加するように願う。さらに詳しい情報は、www.na.org/traditionsのプロジェクトに関するページをご覧ください。

広報活動に関するプロジェクト

「広報活動」と呼ばれるものの多くがきわめて重要なサービスと考えられているが、私たちはこの2年間に協力的な広報の取り組みを

増やしていく予定であり、利用できる資源を頼り、アディクションに関わりのある分野の専門家を集めてNAに関する話し合いに参加してもらうことを考えている。また、アディクションの処方薬とNAの伝統3をとりあげて、専門家向けのパンフレットを作成することも考えている。

このようなプロジェクトとなれば作業量が半端ではないし、NAWSではほかにも現在進めている取り組みがあるところへ、さらに報告やフィードバックの収集、フェロシップディベロップメント、移動などのさまざまな責任が次々と生じてくる。私たちがよく報告しているように、このような仕事を成し遂げる私たちの能力は人手と経済的な資源があるかどうかによって決まるのだ。カンファレンスに関わるプロジェクトを完結させるうえで、私たちのメンバーはとても貴重な資源になってくれる。広報に関心があるか、または手助けをしたいと思っているメンバーに心当たりがあれば、ぜひ、www.na.org/hrpにある「ワールドプール インフォメーション フォーム（ワールドプールの身上書）」にご登録（もしくは更新）をお願いする。

意思決定

1週間にわたるWSCでは、議案や提案の決議のほか、カンファレンスの運営方法をはじめとしてさまざまな事柄に関する議論や意思決定が行われた。

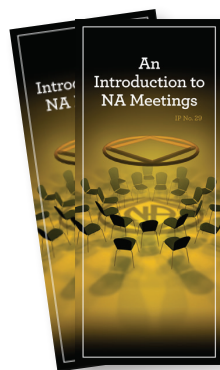
また、ワールドボードへの意見提供としていくつかの提案書が提出されたが、そこにはCDBM（合意に基づく意思決定）に関するアイデアや、広報に関するプロジェクトプラン、CAR（カンファレンス アジェンダ レポート）およびCAT（カンファレンス アブルーバル トラック）に関する事柄、GWSNA（『ガイド・トゥ・ワールドサービス・イン・ナルコティクス アノニマス（NAワールドサービスの手引き）』）、そしてWSCの進行手順などが盛り込まれていた。今回は、インターネット上にワークグループを立ち上げ2016年度のWSCに関するセッションを開くという提案が承認された。これによってRD（リージョナル デリゲート）が交流して一体性をはぐむ時間と場所が提供されることになる。このほかには、WSCにドミニカ リパブリック リージョン（ドミニカ共和国リージョン）の議席を認めるという提案が承認された。

WSCの運営に関する古い議案の2つは、カンファレンス全体の支持を得られずに終わった。これは、WSCの議席（議決権）をリージョナル デリゲートのみとすることを求める議案2と、WSCに出席するデリゲートに対してNAWSによる全面的な資金提供を中止するという議案3で、いずれもNAWSの長期的な資金持続を考慮して提言されたものだった。一部のリージョンでは、すでにリージョナルデリゲートがWSCに出席する費用を全額出資しているし、なかには、リージョナル デリゲートとオルタナイト デリゲートの両方の費用をまかなっているリージョンもある。

『ガイド・トゥ・ワールドサービス・イン・ナルコティクス アノニマス（NAワールドサービスの手引き）』は、2年おきにWSCの決定に基づいて変更されている。今回いくつかみられる変更では、合意に基づく意思決定、CARに盛り込まれる議案や提案、時代遅れになった方針に関する用語をはじめとして、カンファレンスの運営方法に関する用語が修正されている。

GWSNAについては、修正原稿がカンファレンスの出席者に送られるので、90日間で見直しをしていただきたい。

WSCでは、討論や議事運営手続きよりも、議論と合意形成によってさらに多くの決定が行われるように努力を続けている。カンファレンスの本会議にはさまざまな制約があるが、それに縛られずさらに多くのことを決定できる方法があるのではないかと模索しているように見える。そのため、新しい運営案によって続けていくという試みとして、これまでにさまざまな提案を試して



I P # 29、『イントロダクション・トゥ・NAミーティング』が承認され、至急制作の運びとなったため、メンバーたちがこのインフォメーションパンフレットを手にする日も遠くない。

（ウェブサイトの「Coming soon [近日発売]」をご覧ください）

きた。本会議の前にいくつかセッションを開いてじっくりと時間をかけて話し合えば、各議題や議案について考えや意見を交換することができるので、変更や、予備決定もしくは最終決定について意見の一致がみられることになるかもしれない。本会議では「WSCルールズ・オブ・オーダー（議会規則）」を用いることで、前もって議論された議案についての決定を正式なものとしている。そのほかにも、出席者全員が共通の理解によって前進することを保証するために、WSCの最終日に開かれるセッションによって決定したり決意を固めたりすることもある。ワールドボードは、進むべき道を模索して、議論に発展する方法を求めて、さまざまなアイデアに取り組んでいくことになる。そして、リージョナル デリゲートから意見提供を求めつつ、これからの2年間に現在またはここ何年かのカンファレンス出席者によってインターネット上でのワークグループをつくることになる。

2014年のWSCに関する詳しい資料（情報）は、www.na.org/conferenceにある「NAWSニュース」で 入手可能になっている。ワールドサービスカンファレンスのウェブページは、定期的に更新されるので、こまめに確認していただきたい。

選挙結果

WSC 共同進行役

ローラ・B（リオグランデリージョン）

ワールドボード

Jジュニア・オディルソン・ゴメス・B
（ブラジル/サンパウロリージョン）

ヒューマンリゾースパネル

シェリー・V（セントラル アトランティックリージョン）
マイケル・B（ボランティアリージョン）

2014年のWSCに関する詳しい資料は、
www.na.org/conferenceにある「NAWSニュース」で 入手可能になっています
ワールド サービス カンファレンスのウェブページは定期的に更新されるので、こまめにご確認ください。

フェローシップ ディベロップメント

NAは世界で132の国々に広がり、毎週63,000を超えるミーティングで77の言語が話されるまでになったが、それでもなお、私たちの未来像を実現するまでには長い道のりがある。私たちはひきつづき、45の言語によって出版されているNA文献の無料援助を行っているが、現在では、メンバーたちが関税などの問題に阻まれることなくNA文献を手に行き届くように提供先の国で印刷出版することも多くなっている。今回のWSC（ワールドサービスカンファレンス）で開かれたセッションでは、これまでの2年間にわたって世界中で取り組まれたフェローシップディベロップメントの概要が報告された。その主要な取り組みのいくつかをここで紹介しよう。さらに詳しい内容については、『NAWSニュース』の最新号をご覧ください。

ノースアメリカ（北米）

- ・ NAのカナディアン アssenブリとの交流によって、カナダにおける広報活動の有効性が強化された。
- ・ WCNA 35は、過去最大のNAMミーティングが開かれる場となった。日曜の午前が開かれたユニティデイのミーティングでは、会場に集まった人数が18,000人、電話回線による参加者はおよそ10,000人であった。

ラテンアメリカ（南米）

- ・ ブラジルは信じられないような成長を遂げたことで、国内でいくつかのゾーナル フォーラムが次々と開かれるようになり、サービス提供への意欲がかつてないほどの高まりをみせている。
- ・ 2014年度のWSCでは、ラテンアメリカをはじめとするスペイン語圏のNAのデリゲート（代表）たちに『ヴィヴィル・インピオス：エル・ヴィアヘ・コンティニユア』という書籍の見本が渡された。これは、『リビング・クリーン：ザ・ジャーニー・コンティニユア』のスペイン語による翻訳版の第1版であり、LAZFと翻訳者たちとNAWSとがこつこつと共同作業に励んだ成果に他ならない。

ミドルイースト（中東）

- ・ この地では、NA文献を作成してNAを成長させるべく、さまざまなNAが協力を続けている。また、中東からは、アジア パシフィック フォーラムにいくつかのNAが出席し、ヨーロッパアンチデリゲートミーティングにも2つのNAが参加している。
- ・ 中東で回復を求める女性たちの窮状は、いまでも痛々しいものになっている。だがそれも、ゆっくりではあるが確実に好転しつつある。

アジアパシフィック（アジア太平洋）

- ・ 世界のこの地域にみられる最も重要な進歩のひとつは、インドの

バンガロールに文献頒布の拠点ができたことである。これによって、アジアパシフィックゾーンでは文献が非常に入手しやすくなっている。

イースタンヨーロッパ（東ヨーロッパ）とロシア

- ・ この地域の成長があるのは、ひとえに東ヨーロッパの翻訳出版物と人的資源のおかげである。この地域には現在、5つのリージョン（ウェスタンロシア、ノースウェストロシア、ウラル アンドイースタンシベリア、シベリア、ファーイースト）があり、毎週1,300のミーティングが開かれている。
- ・ カザフスタンのNAはメンバーが増え始めたので、いずれリージョンになるかもしれない。

ヨーロッパ

- ・ EDMは、合意に基づく意思決定とフェローシップディベロップメントの素晴らしい実例になっている。

アフリカ

- ・ 南アフリカには地域にしっかり根付いたNAがあり、東アフリカではNAが成長しつつある。2013年には、5月にタンザニアでファースト イーストアフリカ コンベンション（EACNA、第一回東アフリカコンベンション）が開催され、10月にサウスアフリカコンベンション（南アフリカコンベンション）が開催された。いずれのコンベンションでも、NAWSがワークショップの進行役を務めた。
- ・ NAWSは、2013年の第一回EACNAに先だってアフリカの11の国からメンバーを集めてワークショップを開き、進行役を務めた。これによって、11か国のNAからなるアフリカ大陸ゾーナルフォーラム（AZF）が結成された。AZFは、2014年の11月に再び集合することになるだろう。

NAが世界に広がっていることは、私たちのだれもが「知っている」。だが、WSCのフェローシップディベロップメントに関するセッションでは、さまざまな写真を見て、詳しい報告を聞き、そして世界中のアディクトが一堂に会して助け合ったことによって、私たちをつなぐ絆というものをまざまざと実感した。NAWSがみなさんのためにうまく力を発揮させるために必要なのは、コミュニケーションである。みなさんからご意見をお寄せいただければ、こちらもお答えする（worldboard@na.org）。現在の成果は、何年も前にFDによってまかれた種が実を結んだものであるといっても過言ではないのだ。

2014年のWSCに関する詳しい資料（情報）は、「NAWSニュース」で入手可能になっています。

www.na.org/conference をご覧ください。

ワールドサービスカンファレンスのウェブページは定期的に更新されるので、こまめにご確認ください。

Workshops
Meetings
Barbecue

1 First
**EUROPEAN SERVICE
LEARNING DAYS**
Berlin, April 3-5, 2015



このイベントは、あるリージョナルデリゲート（リージョン代表）のアイデアがもとになっている。ひとつのアイデアがEDM * への提案というかたちになってワークグループがつけられることになったのだ。ワークグループでは、このようなイベントのあり方についてさまざまなアイデアを検討する同時に、アメリカ合衆国で開かれた同じようなイベントについても詳しく調べた。

ヨーロッパ サービス ラーニングデイ（ESL、ヨーロッパ サービス 研修会）はEDMの本会議とは切り離され、サービスと各地のNAの成長を助けることにのみ焦点を絞ることになる。EDMには、フェローシップディベロップメントに関する長くしっかりした歴史があるが、その中心となるのは、各地のNAの発展を支援することである。ESLは、翻訳と広報の分野で学び、教わり、経験を共有することを目指すという純粋なかたちによって、NAのサービスを提供しているメンバーたちにふさわしいFDになるだろう。だから、出席者はRD（リージョナルデリゲート）に限られるわけではない。メンバーなら誰でも出席できるのはもちろんだが、リージョンから派遣されて出席する場合には調整役や議長を努めることや、ワークグループやサブコミティ（小委員会）のメンバーとなることもあるだろう。そしてこの研修会では、主な目的がFDの活動であることから、出席する余裕のない小さなNAに対してEDMのFDによる資金提供を可能にする方法にも取り組むことになる。

ファースト ヨーロピアン サービスラーニング デイ（第1回 ヨーロッパ サービス研修会）は、2015年の4月3日から5日までドイツのベルリンで開催される予定である。さらに詳しい情報は、私たちのウェブサイト www.edmna.org でご覧いただきたい。

* ヨーロピアン デリゲート ミーティング（EDM）はゾーナルフォーラムのひとつで、ヨーロッパ大陸だけにとどまらず地理的につながりがある多言語および多文化のNAによって構成されている。

NA ワールドユニティデー

2014年8月30日 — 午前10時（太平洋標準時）

伝えるべきものは自由、

心をつなぐものは純粋な愛

『リビングクリーン：ザ・ジャーニー・コンティニューズ』

第2章「ザ・タイズ・ザット・バインド（心をつなぐもの）」

私たちには、心をつなぐ絆がある。だからこそ、私たちは、世界中の仲間やまだ苦しんでいるアディクトのことをじっくり考えてみようという気持ちになるのだ。このNAがひとつになる日には、世界中のメンバーがみんな『平安の入り』となえる。それにあわせてイベントを開くもよし、仲間と一緒にいるもよし、あるいはひとり静かに過ごすのもよいかも。電話回線もなく、盛大なイベントもないが、しばしの祈りをささげよう。

www.na.org/nawsevents をご覧ください。



役に立ちたいわけ

一体性とは、世界中にいるメンバーたちをこのスピリチュアルな集まりにつなぐ、生き方を変える力を持つ精神のことだ……信頼感のなかで深まる一体性に包まれた私たちは、全体の福利に向けて、協力して取り組んでいこうという心の準備を整えることができたのだ。

『なぜ、どのように効果があるのか』、「伝統1」

2014年度のワールドサービスカンファレンスでは、初日の4月27日（日）に出席者が一堂に会した。少人数のグループによる話し合いでは、目的をひとつにすること、降伏、受容、責任、無私、愛、アノニシティ（無名にとどまること）という伝統1のスピリチュアルな原理について、カンファレンスの出席者たちがわかちあった。それから、NA Way掲載の「役に立ちたいわけ」という仲間のわかちあいに触発されて、世界中から集まった信頼されるしもべたちがそれぞれに役に立ちたいわけをじっくり考えながらペンを走らせていくと、会場はすっかり静まりかえった。



2、3年前、結婚式を挙げて1ヶ月かそこらで、新婚の夫がバイクの事故にあった。一命を取り留めたものの、夫の左足は切断されてしまった。入院して何ヶ月も苦しんだあげく、家に帰るころには薬物治療によってまさに薬漬けになっていた。（わたしにもリラプスの経験がある。ちょうど10年と8ヶ月を過ぎて、わたしは処方薬でリラプスしてしまった。3ヶ月もしないうちにはまってしまい、一日に60錠以上飲まないと言われてしまった）。夫がラリってやめられなくなるという恐れ、片足を失うという恐怖、そして家に残っている大量の錠剤。恐ろしいことばかりで心が折れそうになり、わたしはたまらない孤独感を覚えた。この苦しい道のを、わたしのスポンサーや夫のスポンサーをはじめ、多くの仲間たちが一緒に歩んでくれた。みんなに手を引かれ導いてもらったことで、わたしと夫はあつという間にミーティングにもどっていた……クリーンのままで。そうやって使わないで人生を旅していくすべを、仲間たちが示してくれたのだから、わたしも役に立つことがしたい。だから、サービスに関わって強さや知識、そして力を合わせればできるのだという希望を伝えていきたい。そういうことが、私たちをつなぐ絆になるからだ。

ミシェル・S（アメリカ合衆国／ノーザンカリフォルニア リージョン）



サービスのおかげで、ぼくはNAにとどまられたんだ。そして、あのクリーンで生きていくのがおぼつかなくて危うい時期にサービスに関わったことで、ぼくは目的意識をもって人生を歩めるようになった。さて、ぼくが役に立ちたいわけか。答えに悩むまでもない。生きるためだよ。でも、それがわかるまで悩むんだ。

マヌエル・G（コスタリカ リージョン）



NAの役に立ちとうとすることによって、わたしはどれほど成長したかしれません。それはもう、信じられないくらいです。サービスに関わってれば、要求するにしても意見を言うにしてもみんなと足並みをそろえる方法を学ばせてもらえるし、意見が合わなくても不愉快な態度をとらないということも学べます。つまり、サービスで学ぶことはすべてが家族や友人や同僚たちとの関係で生かせるのです。おかげで、わたしは生きがいのある生活ができるようになりました。

デブ・N（カナダ／ブリティッシュコロンビア リージョン）

ぼくは、スウェーデンで回復の道をゆく若いアディクトのなかでもピカイチになりたくて、サービスに関わるようになった。有名になりたかったんだよ。でも、ステップに取り組むことによってぼくの動機は変化した。サービスに関わる理由は

っぱいあるけど、ほとんどがただひたすら役に立ちたいというものだ。この先いつか、自分に子どもができて、もし、その子たちが使うようになったとしたら、クリーンになる最良の可能性を手にもらいたいんだ。それ以外にも、自分がかつて憎しみや暴力をまき散らしていた世界に愛を広めるために役に立ちたい。仲間のみんなからももらった愛は、ひとりじめするもんじゃないんだからね。

ジミー・E（スウェーデン リージョン）



もし、自分が本気でわかちあい、大儀のために自分を捧げ、そのときどきに自分がやる気にさせられた意見はどんなものでも提供するつもりなら、懸念や不満を表すことは意味のあることになるだろう……サービスに関わることは、自分の居場所があるという感じに直接結びつく。役に立とうとしなくなればなるほどNAにいることに違和感を覚えるようになるが、役に立とうとすればするほどNAの一員であることがしっくりくるんだ。

ラーレン・C（アメリカ合衆国／

ノーザンニューイングランド リージョン）



今や、NAは大きく成長しつつあるが、サービスに関わるメンバーの数はこの成長路線をたどらない。いつかは、役割からあぶれてしまうほど信頼されるしもべたちがいっぱいいて、サービスの順番待ちのリストがあるというグループを目にしたいものだ。

ネルソン・L（ブラジル リージョン）



サービスに関わることで、私はNAと自分自身について多くのことを教わったし、自分の力ではできないことをしてもらった。それはつまり、自分を取り巻く世界に触れていることであり、これまでより前向きなやり方で世界と折り合いをつける方法を学ぶことでもあった。

ギラ・P（イスラエル リージョン）



「クリーンでいることに役立つから、サービスに関わるのだ」と、みんな決まったように言っている。これにはうなずけるとしても、さらに突き詰めて考えたうえで、私は「サービスに関われるように、クリーンでいるのだ」と言っている。たしかに、サービス活動をしていけば、私たちはクリーンでいることができる。私はそのことを早い段階で学んだが、しかし私の場合は、クリーンでいるからサービスに関わっていただけるのだ。どちらも意味することは同じだし、どちらを使っても変わりはないし、どちらも本質を言い当てている。だが、どちらか一方だけでは片手落ちになる……なるほど、だから役に立てるといわけか。

ボナー・S（アメリカ合衆国／ワシントン・ノーザンアイダホ リージョン）

今の俺は、ほかのアディクトたちにミーティングを開き続けるというやる気があったことで、自分は命を救われたのだとわかっているから、役に立つことができる。今の俺は、なぜサービスがやる気を出す最高の表現方法なのかかわかっている。やる気はピラミッドの底辺で、俺に自由をもたらすものだからだ。この底辺がしっかりしていないと、俺の自由は頼りないものになってしまうんだ。

ジョン・F (パナマ リージョン)

n



仲間と一緒にサービスに関われば、仲間が教えてくれる。私が役割から外されるとわかって、合意に基づく意思決定の話し合いのなかでできたことあれば、きっと私のことを理解している神がそうしてくれたのだと納得できる。私たちはお互いに助け合って、自分ひとりでは絶対に理解できない大きな善のためにつくす・・・私は仲間の愛と導きが必要だ。だから、仲間の役に立とうとすることで教えられるのだ。

ジェイミ・S (アメリカ合衆国/コロラド リージョン)

SA



これまでナルコティクス アノニマスからいただいていたものはとても返しきれものじゃないが、それでも俺は本気で報いる努力をしていくつもりだ。このような義務感があれば、打ち込んでいけるし、謙虚な気持ちで失わずにいられる。だから、つくそうという気持ちになるんだ。

ロバート・O (アメリカ合衆国/マウンテンビュー リージョン)



このような仲間の集まりのために役に立つことは、愛、尊敬、感謝の気持ちを身をもって表すものになるのです。アディクトがわたしの目を見たら、わたしもその視線をしっかり受け止める。それで、お互いに仲間だとわかるのです。

フランセル・FS (ブラジル リージョン)



クリーンになって3年が過ぎたころ、おれはよそのグループのミーティングに行った。ミーティングが終わってから、ひとりの男が話しかけてきた。おれがH & Iのパネルになって病院でスピーカーをしたときに、話を聞いたと言っていた。この男は、もうクリーンになって1年になり、H & Iのサービスに関わっている。これだから、サービスはやめられないんだ。

アシュラフ・M (エジプト リージョン)



ぼくは、姉に連れられてはじめてN Aのミーティングに出席しました。姉は、ぼくの支えだったのです。その姉が、クリーンタイムが7年半のときにリブスしてしまいました。それからというもの、姉は1年以上クリーンでいられたためしがありません。姉のために席を空けておくことができるという希望のなかで、ぼくはこれからずっとサービスに関わっていきます。

リード・H (アメリカ合衆国/アラバマNWフロリダ リージョン)

今の私には役に立ちたいという気持ちがあります。だから、一体性を実践して、サービスに関わる仲間たちとの共通点をさぐろうとしています。役に立ちたいという気持ちがあると、わたしには前向きなエネルギーがわいてくるので、それが自分のいるNAにも注がれ、自分の人生をも広げてくれるのです。

パオラ・C (イタリア リージョン)



「自分のものにするには手放さなければならない」という考えは、おいそれとなくするものじゃない。利己的であって、なおかつまったく私利私欲のない考えでもある。だが、これもN Aではおきまりのことで、理解する必要などない。その考えで生きるしかないのだ・・・仲間たちの役に立とうとして生きていたら、ステップの9, 11, 12をしっかり実行することなどとてもできやしないのだ。

ケビン・K (アメリカ合衆国/パチー リージョン)



N Aプログラムはサービスによる治療だと、僕は思っています。役に立とうとしないで、回復などありえません。これは、今日だけのプログラムになっています。ステップやスポンサーシップやミーティングは、僕が今日やれること。クリーンでいようとする僕の努力は、今日という日のためにある。サービスは、未来のためのもの。それなりの覚悟があれば、僕は未来に行動を起こすことを自分に約束できるのです。こうしていればかならず、ぼくの未来はアディクションから自由になるでしょう。役に立とうとすることは、ぼくの9番目のステップになっています。だから、僕はサービスに関わるのです。

イーゴリ・K (ウエスタンロシア リージョン)



俺はN Aにつながったことでようやく、自由、誠実さ、愛、一体感、尊敬、受容というものがわかった。だから、NAの役に立ちたいんだ・・・どのように他人を受け入れ、どうやって他人と共に生き、どんなふうにもうけを認め、どうしたら手放せるのか、そういうことを学んできたのだから、俺は役に立ちたい。俺はナルコティクス アノニマスを愛しているから、つくそうとする。俺はもう一度夢を見ることができると、それこそ奇跡なのだから、NAにお返しをしたいんだ。

パノス・P (ギリシャ リージョン)



長年にわたって自分が大きく成長した点を振り返ってみると、こうして自分が生きられるようになったのはステップワークをこなして何らかのサービスに関わったおかげだ・・・NAで回復するなら当たり前なことだ・・・だから、NAのサービスで私がすることはすべて、これからやってくるアディクトのためにミーティングが存在することに直結している。

ラッセル・G (アメリカ合衆国/ユタ リージョン)



私がサービスに関わるのは、役に立とうとすることが自分の回復のなかで重要な役割を果たすからだ。サービスによって、私は日々の生活のなかでN Aのスピリチュアルな概念や原理を実行する。N Aのおかげで、もう一度生きられるようになり、今もこうして生きているのだから、そのN Aの存続と私たちの共通の福利を守るためにサービスに関わって自分の責任を全うするのだ。役に立とうとすることで、私の人生が変わる。神は、私と家族のためにさまざまな機会をもたらしてくれた。サービスに関わることは、社会でも、仕事でも、人生のあらゆることに役立つし、役に立とうとすることで心おだやか

に暮らせるようになるのだ。

ハマーン・H (イラン リージョン)

オレは、ろくな人間にならないだろうし、自己破壊の道を突き進んで死ぬしかないヤツだとずっと思われていた。オレには希望などなかった。使っているアディクトのまま死ぬことになるんだ、どうせそういう運命なんだ、と思っていた。そんなオレでも、何かを変えなきゃ、こんな生き方を続けていたらきっと死んじまうという気づきがあって、病院にたどりついた。そして、オレはもうこんな生き方をしなくていいし、別の生き方があるんだ、と何人かの仲間が話してくれた。そのとき、何か重大なことが起こって、何か違うことをやってみようという意欲がわいてきた。ほかの人たちにメッセージを運ぶときにおれが思い出そうとするのは、この経験なんだ。どんな小さなチャンスがめぐってくるかわかりやしないし、それでもって人生が変わるヤツだっている。オレの場合がそうだったようにな。だから、オレは役に立ちたいと思うんだし、話が聞ける状態になっている人々には、この命を救うメッセージが届くだろう。

ジム・B (アメリカ合衆国/シカゴランド リージョン)



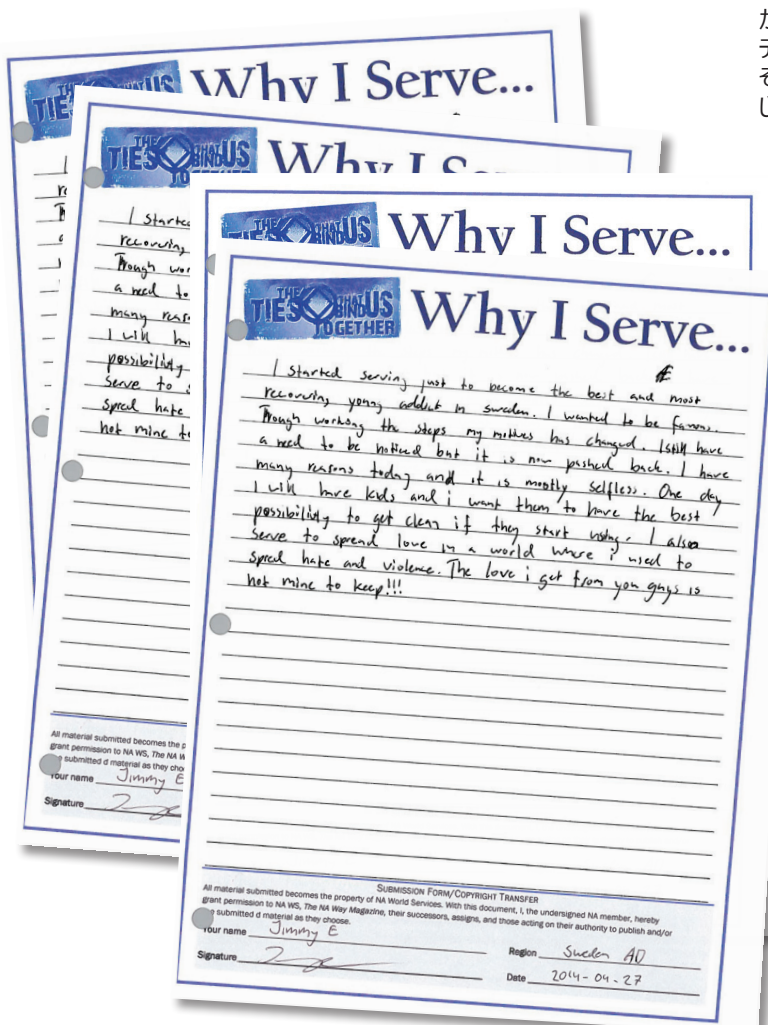
役に立とうとすることへの報いは、役に立とうとするという行為なのだ、とぼくは教えられました。そんなこと、最初は理解できませんでした。有能で一目置かれて肩書きができることで、報われるんだろうと思ったのです。そして、正しい理由でサービスを行うようになったとき、理解しはじめたのです。報いというのは、一目置かれることや肩書きのことなんかじゃなく、メッセージを運ぶこと、それによって自分に伝わってくるさまざまな思いのことだったのです。

リチャード・H (カナダ/オンタリオ・リージョン)



わたしは初めて11番目のステップに取り組んだとき、人生に何を望んでいるかと聞かれました。わたしはよい母親、よい友、よい妻になりたい。責任感があって思いやりのある人間になりたい。仕事に感謝の気持ちを生かしたい。と、答えを挙げていくときがありませんでした。ものすごい勢いでペンを走らせて思っていることを書き殴り、「生きる喜びを感じたい」と書いたところで泣き出していました。長年にわたってずっと完璧であろうとし、自分を認めてもらおうとし、安らぎを見いだそうとしていたけれど、べつに生きる喜びを味わったってバチが当たるわけじゃなかったんです。あのとき、そう気づいた瞬間に涙を流しながら、わたしは念願かなって心穏やかに自分を受け入れていたのです。NAにつながってほしいと、まだ苦しんでいるアディクトたちにあのような安らぎを知ってほしいと思います。そのために、わたしはつくしたいのです。

ドナ・リー・P (セントラルアトランティック リージョン)



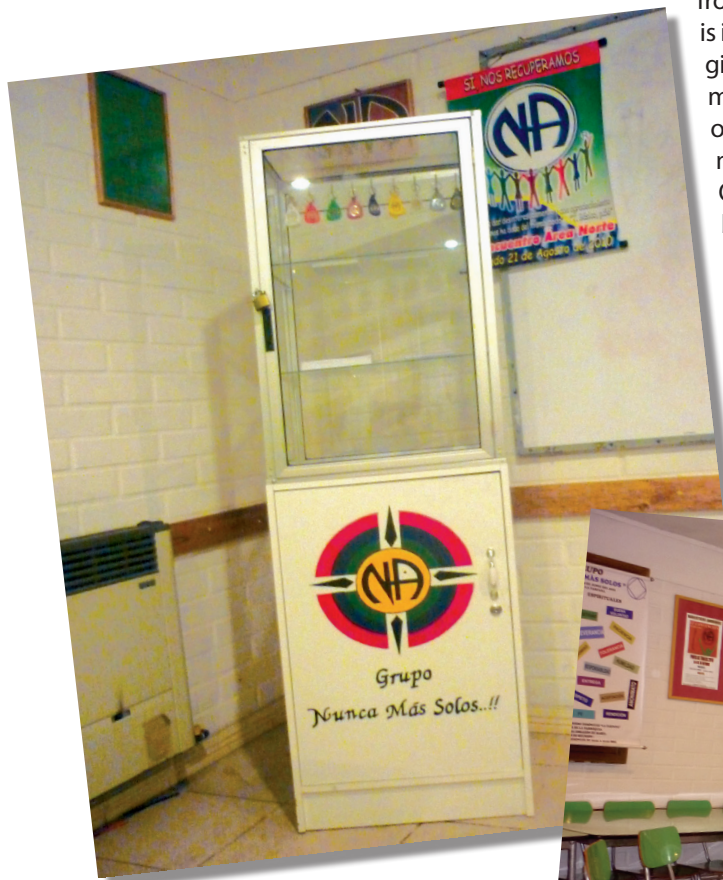
Picture this

NA communities are invited to send photographs of their meeting places and events. Sorry, we cannot use photos that identify NA members. Please tell us the group/event name, location, how long it has been in existence, format or special traditions, and what makes it a unique part of your NA community.

Nunca Más Solos

I want to share with members around the world that in this very narrow region of Chile, we have our group, Nunca Más Solos (Never Alone Again), which opened its doors on 28 June 2009. It is located in Santiago de Chile, near the town of La Farfana. Our home group holds meetings on Monday, Thursday, and Sunday from 8:00 to 10:00 pm. The group has a solid infrastructure that is intimate and autonomous. We have a wall heating unit that gives us a warm recovery atmosphere during the hard winter months in this southerly region. We have regular attendance of seven to twelve members, we hold both open and closed meetings with candlelight, and we have speaker meetings. Our group is a part of the Poniente ASC. On our bulletin board we have the monthly schedule of meetings and a list of guidelines to maintain good relationships with our landlord. We have a toolbox of service aids, event posters, reports, meeting lists, and various topics from our NA Fellowship. We do recover, we can recover, and it works! We send hugs and greetings to NA members in each region around the world. We hope we can see you here, and we await your arrival with love in the group Nunca Más Solos.

Mauro A, Santiago, Chile





CALENDAR

Multi-day events and those occurring between publication dates are printed according to the schedule posted online. To enter events or to access event details, visit the online calendar at www.na.org/events. (If you don't have Internet access, fax or mail your event info to 818.700.0700, attn: NA Way; or The NA Way; Box 9999; Van Nuys, CA 91409 USA.)

Issue	Events Occurring	Submission Deadline
April	10 April – 31 July	15 January
July	1 August – 31 October	15 April
October	1 November – 31 January	15 July
January	1 February – 30 April	15 October

Argentina

Rosario 3-5 Oct; Rosario Area Convention 11; Cabanas La Estela, Rosario; narosarioconvencion@hotmail.com; www.narosario.org.ar

Bermuda

Southampton 5-7 Sep; Bermuda Islands Area Convention 8; Fairmont Southampton, Southampton; www.nabermuda.com

Brazil

Belem 19-21 Sep; Forum Unificado dos Subcomites; Centro Social Sagrada Familia; Ananindeua, Para; na.org.br/nabrasil.org.br

Canada

British Columbia 26-28 Sep; Canadian Convention 22; Vancouver Island Conference Centre, Nanaimo; www.canadianconvention.com

Ontario 17-19 Oct; Toronto Area Men's Retreat; Bliss Haven Retreat Centre, Dunnville; www.torontona.org

Prince Edward Island 29-31 Aug; Prince Edward Island Area Convention 5; Quality Inn & Suites Hotel, Summerside; www.carna.ca

Quebec 1-3 Aug; Lower Saint Lawrence Campout 3; Campsite, Sainte-Rita; www.naquebec.org

Denmark

Skandeborg 1-3 Aug; Area Midtjylland Convention/Campout 7; Audonicon, Skanderborg; www.nakonvent.dk

France

Écully 31 Oct-2 Nov; France Region Bilingual Convention 18; Valpré Lyon, Écully; www.narcotiquesanonymes.org

Greece

Athens 5-7 Sep; European Convention & Conference 30; Divani Apollon Palace & Spa, Athens; www.eccna30.org

Hungary

Keszthely City 15-17 Aug; Hungary Regional Convention; Keszthelyi Ipartestület, Keszthely City; www.na.info.hu

India

Goa 25-27 Sep; Indian Regional Convention 7; Byke Old Anchor Resort, Goa; speaker tape deadline: 31 Aug; www.ircna7.in

Israel

Dead Sea 11-13 Sep; Israel Regional Convention 30; David Dead Sea Resort & Spa, Dead Sea; www.naisrael.org.il/

Japan

Tokyo 21-24 Aug; Japan Regional Convention 10; Tokyo Big Sight, Tokyo; www.najapan.org/jrcna/index.html

Mexico

Michoacán 31 Jul-3 Aug; Occidente Regional Convention CROMEX 13; Hotel Diana del Bosque, Morelia; www.naregionoccidente.org

Baja 8-10 Aug; Puerto Area Convention; Hotel San Nicolas, Ensenada; www.bajason-na.org

New Zealand

Wellington 24-26 Oct; Aotearoa New Zealand Regional Convention 14; Saint Andrews on the Terrace, Wellington; www.nzna.org

Paraguay

Asunción 29-31 Aug; First Paraguay Regional Convention; Quinta Ykua Sati, Asunción; www.na.org.py

United Kingdom

Scotland 26-28 Sep; Glasgow Area Convention 16; Marriott Hotel, Glasgow; www.ukna.org/events

United States

Alaska 3-5 Oct; Alaska Regional Convention 30; Challenger Center, Kenai; www.akna.org/index.htm

California 19-21 Sep; Serenity Under the Stars at the Beach; California State Parks, Pismo Beach; www.serenityunderthestars.net

Connecticut 12-14 Sep; History of NA Conference; Sheraton Hotel, Stamford, CT; www.historyofna2014.com

Florida 15-17 Aug; North Dade Area Convention; Hyatt Regency-Downtown, Miami; www.northdadearea.org

2) 22-24 Aug; Vision Without Limits Speaker Jam; Hilton Clearwater Beach, Clearwater; event info: 513.417.5086

3) 29 Aug-1 Sep; South Florida Regional Convention 20; Bonaventure Resort, Weston; www.sfrca.com

4) 17-19 Oct; First Coast Area Convention; Wyndham Riverwalk, Jacksonville; www.firstcoastna.org/

Hawaii 26-28 Sep; Kauai Area Gathering; YMCA Camp Naue, Haena; www.na-hawaii.org/area_gatherings.htm

2) 30 Oct-2 Nov; Hawaii Regional Convention 22; Royal Lahaina Resort Maui, Kaanapali; www.na-hawaii.org/regional_convention.htm

Illinois 21-24 Aug; South City Area Convention 8; Hyatt Regency McCormick Place, Chicago; www.chicagona.org/SouthCity/index.htm

Indiana 22-24 Aug; End of Summer Celebration 19; Prairie Creek Reservoir, Selma; event info: 317.690.1204

Kentucky 26-28 Sep; Bluegrass-Appalachian Regional Convention 6; Clarion Hotel, Lexington; www.kentuckysurvivors.com

Maryland 1-3 Aug; Baltimore Area Convention 11; Turf Valley, Ellicott City; www.baltoareana.org/bacna.html

2) 24 Oct-1 Nov; Free State Region Recovery at Sea Cruise; Port of Baltimore; www.fsna.org

Massachusetts 15-17 Aug; Western Massachusetts Area Convention 14; Sheraton Hotel, Springfield; www.wmacna.org
 2) 11-12 Oct; Central Mass Area Unity Day Basketball Tournament/ Speaker Jam 3; YMCA, Worcester; event info: 508.335.0867
 Mississippi 26-27 Sep; Starlight Recovery Group Campout; Flint Creek Water Park, Wiggins; event info: ulie_collins2013@yahoo.com
 Montana 3-5 Oct; Montana Regional Convention 4; Billings Crowne Plaza, Billings; www.namontana.com
 Nebraska 22-24 Aug; Bader Campout 4; Bader Park, Central City; www.nebraskana.org
 New Jersey 8-10 Aug; New Jersey Regional Convention 29; Crowne Plaza Hotel, Cherry Hill; www.njrcna.com
 2) 22-24 Aug; Western Queens Area Summer Retreat; Camp Mason, Hardbridge; www.westernqueensna.org
 3) 31 Oct-2 Nov; North East Area Convention 18; Renaissance Woodbridge, Iselin; www.nanj.org/index.shtml
 New York 1-3 Aug; Westchester Area Convention 2; Stamford Plaza Hotel/Conference Center, Stamford; www.wacna.org
 2) 22-24 Aug; ABCD Regional Convention 7; Albany Hilton Hotel, Albany; www.abcdrna.org
 3) 29 Aug-1 Sep; Recovery in the Woods 26; Camp Pioneer & Retreat Center, Angola; www.nawny.org
 4) 19-21 Sep; Western New York Regional Convention 19; Byblos Niagara Resort & Spa, Grand Island; www.nawny.org
 5) 31 Oct-2 Nov; Suffolk Area Convention 12; Huntington Hilton, Melville; www.sasna.org
 North Carolina 29-31 Aug; Twin City Area Surrender to Win Convention 14; Embassy Suites, Winston-Salem; www.tcana.org
 2) 3-4 Oct; Greensboro Area United States Service Conference 3; Clarion Hotel, Greensboro; www.usscna.org

3) 31 Oct-2 Nov; Greater Sandhills Area Convention 2; Holiday Inn Bordeaux, Fayetteville; event info: 910.299.4158
 Ohio 3-5 Oct; Western Reserve Area Woman-to-Woman Empowerment Expo; Clarion Inn & Conference Center, Hudson; speaker tape deadline: 8 Sep; www.wrascna.org
 Oklahoma 17-19 Oct; Shawnee Fall Convention; America's Best Value Inn, Shawnee; event info: 405.488.4178
 Oregon 29-31 Aug; Portland Area Convention; Red Lion Hotel Jantzen Beach, Portland; www.portlandna.com
 2) 24-26 Oct; Pacific Northwest Convention 37; Valley River Inn, Eugene; www.pnw37.org
 Pennsylvania 22-24 Aug; Greater Philadelphia Regional Convention 28; Loews Philadelphia Hotel, Philadelphia; www.naworks.org
 2) 10-12 Oct; First Delco Area Convention; Clarion Hotel, Essington; speaker tape deadline: 10 Sep; www.nadelco.org
 South Dakota 3-10 Aug; Sheridan Lake Campout; Squirrel Group Campsite, Hill City; www.sdrna.com
 2) 12-14 Sep; South Dakota Regional Convention 17; Ramada Hotel & Convention Center, Aberdeen; www.sdrna.com
 Texas 12-14 Sep; Miracles & Solutions Group Living the Dream 21; Holiday Inn, Austin; event info: diane_bts@yahoo.com
 Vermont 14-17 Aug; Green Mountain Area Back to Basics 30 Campout; Wallingford Boys Camp, Wallingford; www.gmana.org
 Virginia 1-3 Aug; Almost Heaven Area Convention 28; 4H Educational Center, Front Royal; event info: 304.283.9077
 2) 29 Aug-1 Sep; Marion Survivor's Group Campout; Hungry Mother Lutheran Retreat Center, Marion; event info: 276.646.8462
 Wisconsin 3-5 Oct; Wisconsin State Convention 31; Plaza Hotel & Suites, Eau Claire; www.wsnac.info



Chinese 就在今天

Item No. CH-3108 Price US \$0.24

NAWS Product Update

Korean

회복과 재발

Item No. KO-3106 Price US \$0.24

Chinese (Traditional)

致新成員

Item No. CT-3116 Price US \$0.24

Polish

Właśnie dzisiaj

Item No. PL-3108 Price US \$0.24

Hungarian

An Introductory Guide to NA
Bevezető útmutató a
Narcotics Anonymoushoz

Item No. HU-1200 Price US \$2.00



Portuguese (Brazil)

Acessibilidade para aqueles
com necessidades especiais

Item No. PB-3126 Price US \$0.24

Fiatal függőktől fiatal függőknek

Item No. HU-3113 Price US \$0.31

Anyagi Kérdések Az NA Önellátása

Item No. HU-3124 Price US \$0.53

Russian

Служение «Больницы и Учреждения»
(БУ) и членство в АН

Item No. RU-3120 Price US \$0.24



Spanish

Living Clean: The Journey Continues
Vivir limpios: El viaje continúa

Item No. SP-1150 Price US \$9.75



สำหรับวันนี้

Item No. TH-3108 Price US \$0.24

สามเหลี่ยมของการหมกมุ่นอยู่
ในตัวเอง

Item No. TH-3112 Price US \$0.24

สำหรับผู้มาใหม่

Item No. TH-3116 Price US \$0.24

ใช้ชีวิตอย่างปลอดภัยเสพติด



Thai

การรวมกลุ่ม

Item No. TH-3102 Price US \$0.31

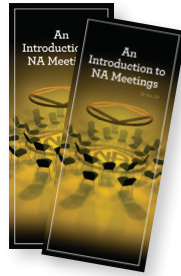
มองกลับมุม

Item No. TH-3105 Price US \$0.24

เมื่ออยู่ในโลกภายนอก

Item No. TH-3123 Price US \$0.24

Coming Soon



IP No. 29,

An Introduction to NA Meetings

A welcoming introduction to those at their first meetings or in early recovery.

Item No. 3129 Price US \$0.24

Croatian

Basic Text (5th Edition)

Anonimni narkomani

Item No. CR-1101 Price US \$7.90

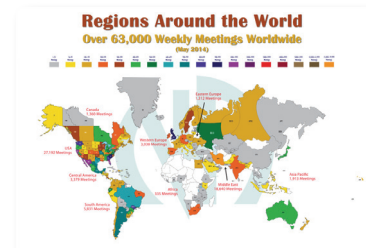
Demographic poster (I-stand)

Item No. 9092 (35" x 84") Price US \$33.00

Item No. 1604 Price US \$0.40

Information about NA

Item No. ZPR001002 Price US \$0.30



Material for your PR efforts, now
updated with updated 2014 statistics

A Resource in Your Community

Membership Survey

Item No. ZPR001001 Price US \$0.30

World Regional Meeting Map Banner

Item No. 9090 (5' x 7') Price US \$77.45

Item No. 9091 (45" x 63") Price US \$47.45

To Be Discontinued
when stock is depleted

Sponsorship, Gift Edition

